

高等教育開発をリードする人材が  
集い、学び、成長する場。

第2期  
5年間の  
総括

平成27年～令和元年度

全国の高等教育機関の組織力向上のための  
「教職員能力開発拠点」

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室



## 第2期 5年間の 総括

平成27年度～令和元年度

## 第1期・第2期拠点認定期間を越えて

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室が、平成22年3月に教育関係共同利用拠点(拠点名称:教職員能力開発拠点)として認定を受け、早10年が経過しました。この10年間の認定期間をそれぞれ第1期(平成22年度～26年度)・第2期(平成27年度～令和元年度)認定期間と呼んでいますが、令和2年3月をもって第2期認定期間が終わりを迎えます。

本拠点はこれまで、全国の高等教育機関や教職員を対象に、教育の質向上を目的とした多数のFD/SDプログラムを提供してきました。研修プログラムにご参加いただいた教職員の方々は、第1期・第2期の10年間を通して延べ6,000人以上にのぼります。認定当初は「四国地区大学教職員能力開発ネットワーク(SPOD)」での活動を通じたFD/SDプログラムの提供・講師派遣が中心でしたが、徐々に活動の場が全国へと広がり、これまでに北海道～九州・沖縄までの様々な地域で、研修プログラムや講師派遣を行っています。また、第2期の重点的取組である「FD/SD/IRの専門家・実践的指導者の育成」に関する研修プログラムは、参加者約550名(10年間計)のうち9割以上が四国外の機関からのご参加でした。教育企画室は名実ともに「教職員能力開発拠点」として全国的に認知されつつあると考えています。

このような活動が評価され、また皆様に本拠点事業を積極にご活用いただいたお陰様で、文部科学大臣より令和2年4月～令和7年3月までの5年間、引き続き「教職員能力開発拠点」として認定いただくことができました。第3期認定期間となる令和2年度からは、個々の教職員の方々への支援以上に、「組織への支援」、つまり組織開発支援を重視した取組を行って参ります。今後も引き続き、本拠点をご支援いただきますようよろしくお願い申し上げます。

愛媛大学学長特別補佐，教育・学生支援機構副機構長  
教育企画室長，教職員能力開発拠点代表

小林 直人 Naoto Kobayashi





## ■ 教育関係共同利用拠点認定について

教育関係共同利用拠点制度とは、多様化する社会とニーズに応えつつ質の高い教育を提供していくために、各大学の有する人的・物的資源の共同利用等を推進することで、大学教育全体として多様かつ高度な教育を展開していく取組を国が支援することを目的として、平成21年度に創設された制度です。

(文部科学省HP:[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/koutou/daigakukan/1292089.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/daigakukan/1292089.htm))

愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室は、教職員能力開発のための研修講師の派遣や、独自で開発したFD研修プログラムの提供、及び愛媛大学が代表校を務める四国地区大学教職員能力開発ネットワーク(SPOD)における教職協働など幅広い取組実績が評価され、平成22年3月23日に文部科学大臣から、四国の中核的な拠点として教育関係共同利用拠点(拠点名称:教職員能力開発拠点)に認定されました。その後、継続的な取組が高く評価され、平成26年7月31日、令和元年8月15日にそれぞれ5年間の再認定を受けています。

- ◎ 認定施設名: 愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室
- ◎ 認定施設の種類: 大学の教職員の組織的な研修等の実施機関
- ◎ 代表者名: 小林直人(愛媛大学学長特別補佐, 教育・学生支援機構副機構長, 教育企画室長)
- ◎ 認定の有効期間: 平成22年4月1日～平成27年3月31日  
平成27年4月1日～令和2年3月31日(再認定)  
令和2年4月1日～令和7年3月31日(再認定)

## 01

## FD/SD/IR推進の専門家・実践的指導者の養成・支援

本拠点では、FD/SD/IRの専門家をそれぞれFDer(ファカルティ・ディベロッパー)、SDC(スタッフ・ディベロップメント・コーディネーター)、IRer(インスティテューショナル・リサーチャー)と呼んでいます。第1期はFD/SDの実践的指導者支援を事業の中心に据え、平成23年度にFDer養成講座を、平成24年度にSDC養成講座を開始しました。第2期には、これらにIR推進の専門家養成を加えた「FD/SD/IRの専門家・実践的指導者の養成・支援」を事業の中心的な取組とし、計15回の講座を実施した結果、5年間で300名以上の教職員にご参加いただきました。

### ■ FDer(ファカルティ・ディベロッパー)養成講座

FDを企画、実施、運営することができる人材「ファカルティ・ディベロッパー(FDer)」の養成を目的に、「FDer養成講座」を平成27年度・29年度・令和元年度の計3回実施し、90名を超える方々への支援を行いました。本拠点におけるFDerとは、組織のFD責任者として各種研修プログラムの企画・実施や各教員への教育技術の支援を行う専門家のことを指し、(1)個々の教員や授業科目における教育技術の改善(ミクロ・レベル)、(2)学部や学科・コース等におけるカリキュラムの改善(ミドル・レベル)、(3)個々の大学やコンソーシアムでFDを推進するための組織整備(マクロ・レベル)の役割を担うことが期待されます。また、本講座は理工学教育共同利用拠点(芝浦工業大学教育イノベーション推進センター)、日本高等教育開発協会といった他の高等教育機関との協働により実施していることが特徴です。



R2.2.7～9 FDer養成講座

	年度	参加者数
第1期	平成22年度～平成26年度	79名
第2期	平成27年度	40名
	平成29年度	34名
	令和元年度	19名
第2期合計		93名

## 研修スケジュール(例)

### 1日目

- ・ FD活動の振り返り
- ・ FDを理解する
- ・ FDを設計する
- ・ 研修を運営する

### 2日目

- ・ 授業コンサルティングを運営する
- ・ 学生参加型FDを運営する
- ・ ティーチング・ポートフォリオを取り入れる
- ・ 組織開発につながるFDを実施する
- ・ ファカルティ・ディベロッパーとして成長する
- ・ 演習:FDの企画案を作成する

### 3日目

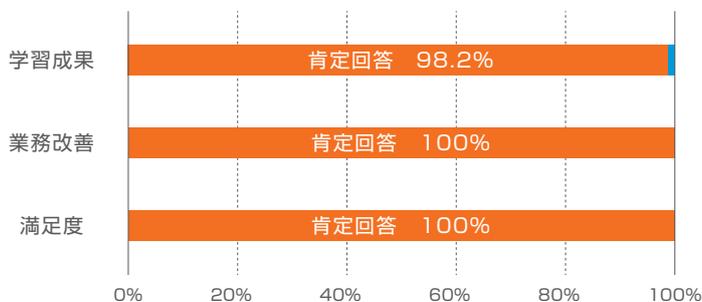
- ・ 演習:FDの企画案を作成する
- ・ FDの企画案の発表を共有
- ・ FDを設計する
- ・ 研修を運営する

本講座では、FDの必要性について説得力をもって説明できること、所属機関のFDの特徴と課題を抽出できること、FDのさまざまな場面で求められる課題解決方法を提案できることなどを到達目標とした、3日間のプログラムを提供しています。また、FDerとしての知識・技能・態度を学ぶだけでなく、全国の様々な大学から集まるFD担当者とのネットワーク構築の場としても活用されています。



H27.10.2~4 FDer養成講座

## 事後アンケート結果(第2期平均)



■ そう思う+どちらかといえばそう思う    ■ どちらかといえばそう思わない+そう思わない

※全3回の事後アンケート結果のうち次の設問項目を抽出:研修は全体的に満足できるものだった、受講したことによって業務への取り組みが改善されると思う、自分に必要な知識やスキルを身につけることができた(そう思う~そう思わないの4件法で回答)

### 参加者の声(事後アンケートより)

- ・ 特効薬的な話ではなく、FDの概念、課題、計画等、基礎から発展まで理解できる構成であった。
- ・ 具体的なFD改善の技法から基本的な考え方で、幅広く学べた。何より漠然とした悩みに対しての改善の道筋を描け、気持ちが楽になった。

# 01

## FD/SD/IR推進の専門家・実践的指導者の養成・支援

### ■ SDC(スタッフ・ディベロップメント・コーディネーター)とは？

SDCとは、職員の能力開発に関する知識・技術を習得し、以下の4点を担うことのできるSDの実践的指導者を指します。

- (1) 大学等における人材育成ビジョンの構築の援助
- (2) 各大学等におけるSDプログラムの企画・立案
- (3) 職員のキャリア開発
- (4) 人材育成を目的とした目標管理制度などの企画・立案



SDCは人材育成の方針を可視化し、その方針に合ったSDプログラムを企画・立案するなど、人的資源管理システムを機能させるための考え方や手法を身につけることが必要です。そのためには、1つ1つのSDプログラムの目標設定、広報、当日に至るまでの段取りや運営、目標に対する評価を適切に行うとともに、自分自身あるいは他者のキャリア形成を支援できるようにならなければなりません。

### ■ SDC(スタッフ・ディベロップメント・コーディネーター)養成講座

SDの実践的指導者(スタッフ・ディベロップメント・コーディネーター:SDC)の養成・支援は、本拠点独自の取組です。平成23年度よりSDC資格認定基準を明確化し、平成24年度より『SDC養成講座』をはじめとして、当該講座受講者への継続的支援としてのセミナーやSDを実践する場など、SDCを育成するためのさまざまな機会を提供してきました。第2期の5年間においても、SDCの養成・支援は重点的な取組であり、平成27年度から本講座を全国各地で毎年開催し、延べ102名の教職員が参加しました。

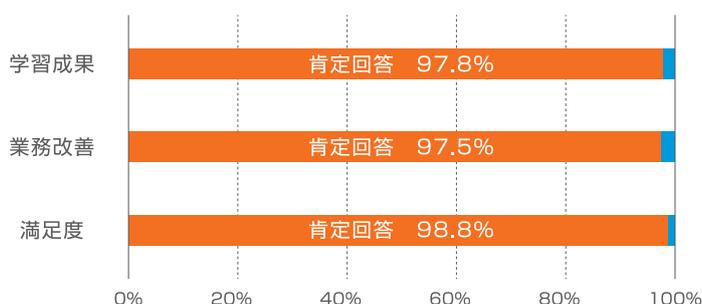
本講座では、人材育成ビジョン、スタッフ・ポートフォリオ、メンタリング、SDプログラムの開発などのテーマを取り扱います。それぞれのテーマについて、講義とワークを交えながら、SDCに求められる実践的な能力を身につける機会としました。また、本講座受講者に対するSDC取得のための継続的な学習機会の提供を目的として、フォローアップセミナーを行っており、第2期は平成27・28・30年度の計3回開催しました。



R2.2.7～9 SDC養成講座

	年度	参加者数
第1期	平成22年度～平成26年度	117名
第2期	平成27年度	24名
	平成28年度	16名
	平成29年度	18名
	平成30年度	22名
	令和元年度	22名
第2期合計		102名

## 事後アンケート結果(第2期平均)



■ そう思う+どちらかといえばそう思う ■ どちらかといえばそう思わない+そう思わない

※全5回の事後アンケート結果のうち次の設問項目を抽出;研修は全体的に満足できるものだった,受講したことによって業務への取り組みが改善されると思う,自分に必要な知識やスキルを身につけることができた(そう思う~そう思わない)の4件法で回答)

### 参加者の声(事後アンケートより)

- ・本学では具体的な人材育成プランがなく,1から作成していくうえで非常に参考になった。
- ・これまで自大学のSDのあり方に疑問をもっていたので,この学びを活かして新たな提案ができると思う。

## SDC認定実績

第1期認定者9名のうち8名は愛媛大学教職員であり,SDCを全国の大学に普及させることが課題として残りました。そのため第2期は学外認定者の増加(数値目標:8名以上)を目標に,各種研修や継続的支援を実施した結果,平成27年度~令和元年度までの5年間で学外者9名(計20名)のSDCの輩出に至りました。

	年度	人数・内訳*
第1期	平成22年度~平成26年度	9名(うち学外者1名)
第2期	平成27年度	0名
	平成28年度	4名(うち学外者2名)
	平成29年度	5名(うち学外者3名)
	平成30年度	7名(うち学外者3名)
	令和元年度	4名(うち学外者1名)
第2期合計		20名(うち学外者9名)

※認定当時の所属



SDC資格認定証書

01

# FD/SD/IR推進の専門家・実践的指導者の養成・支援

## ■ IRer(インスティテューショナル・リサーチャー)養成講座

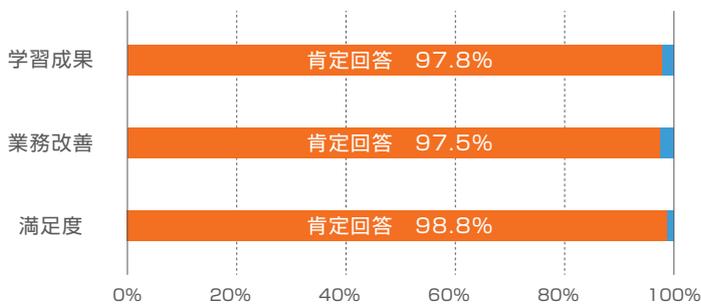
本拠点におけるIRerとは、教学に関わる様々なデータ(各種調査や教務データ等)に基づき、組織的に教育改革・改善を行うことができる専門的な能力を有する教職員を指します。

IRer養成講座は、IRの専門家養成の需要の高まりに応えるため、平成26年度より開始したプログラムです。平成25年度までに実施していた半日程度のワークショップを発展させ、現在は2日間の集中プログラムとして開催しています。本講座の目的は、IRの意義や方法、データ分析や管理に関する基礎的な知識を身につけるとともに、所属大学におけるIRの実務を推進または改善するための具体的手法を身につけることにあります。第2期には計4回講座を実施し、全国から144名の教職員が参加しました。



	年度	参加者数
第1期	平成26年度	40名
第2期	平成28年度	35名
	平成29年度	30名
	平成30年度	40名
	令和元年度	39名
第2期合計		144名

### 事後アンケート結果(第2期平均)



■ そう思う+どちらかといえばそう思う ■ どちらかといえばそう思わない+そう思わない

※全4回の事後アンケート結果のうち次の設問項目を抽出:研修は全体的に満足できるものだった、受講したことによって業務への取り組みが改善されると思う、自分に必要な知識やスキルを身につけることができた(そう思う～そう思わない)の4件法で回答)

#### 参加者の声(事後アンケートより)

- ・ IRの活動にあたって求められる基礎的な技能・知識について学ぶことができた
- ・ ワークを通じ、実践に近い形で分析や提案について学ぶことができた
- ・ 他大学におけるIR業務やデータ管理方法などを、グループワークによって知ることができた

## 研修スケジュール(例)

### 1日目

- ・ IRの意義と方法を理解する
- ・ IRerに必要な能力を理解する
- ・ 実務担当者の分析事例
- ・ データの適切な管理方法を理解する
- ・ 質的データ、量的データを分析する

### 2日目

- ・ 管理者が求める報告のポイントとは
- ・ IRに関する質疑応答
- ・ 教育・学生支援の改善提案を考える

IRer養成講座では、IRの意義や質的・量的データの分析方法、データの管理方法といったIRに関する基礎的な知識や技能を学ぶだけでなく、各々の参加者が所属大学における事例を持ち寄り共有するとともに、学生調査の模擬データをもとに、教育・学生支援の改善策を検討するなど、実践的な内容を提供しています。また、分析や報告を行う担当者の視点だけでなく、報告や提案を受ける管理者側の視点からみたIRのポイントなど、様々な側面からIRに関する理解を深めていきます。

IRer養成講座は、全国のIR担当者との情報交換・ネットワーク構築の場としても機能しています。本拠点が提供する研修プログラムの中でも特に需要が高く、毎年定員を超える方々からの申し込みをいただいています。



H28.10.14~16 IRer養成講座



H29.11.17~19 IRer養成講座

## 02

## 各種研修プログラムの提供

本拠点では、FD/SD/IR推進の専門家・実践的指導者の養成に関する講座以外にも、教員の授業運営能力の向上に関するもの、職員のキャリア形成に関するものなど数多くの研修プログラムを提供しています。第2期の5年間を通じ、提供したプログラムは88件、参加者は延べ1,866名にのぼります。また、研修参加者を対象とした事後アンケートの結果、全ての年度において90%以上の参加者が「研修に満足している」と回答しました。

## 研修プログラム提供実績

令和2年2月末現在

	年度	提供数	参加者数
第1期	平成22年度～平成26年度	152件	4,284名
第2期	平成27年度	18件	467名
	平成28年度	18件	393名
	平成29年度	19件	429名
	平成30年度	20件	365名
	令和元年度	13件	212名
第2期合計		88件	1,866名



## ■ 授業デザインワークショップ

授業デザインワークショップとは、授業を担当するにあたって必要となる基礎的な知識と技術を学ぶことを目的とした研修であり、主に採用後3年以内の教員を対象としています。2日間のグループ作業を通じて、授業の構想・設計・実施・評価に関わる一連の過程について学びます。第2期の5年間で計10回開催し、165名の教員に対する支援を行いました。

R1.6.29～30  
授業デザインワークショップ

	年度	提供数	参加者数
第1期	平成22年度～平成26年度	計8回	145名
第2期	平成27年度	第24回	16名
		第25回	18名
	平成28年度	第26回	17名
		第27回	20名
	平成29年度	第28回	10名
		第29回	21名
	平成30年度	第30回	15名
		第31回	22名
	令和元年度	第32回	15名
		第33回	11名
第2期合計			165名

## ■ TP(ティーチング・ポートフォリオ)作成ワークショップ

TP(ティーチング・ポートフォリオ)とは、教員の教育実績に関する厳選された記録を指します。主に授業の質を高めること、教育者としての自身を省察することなどを目的として作成されます。本拠点が実施するTP作成ワークショップでは、メンターとともに自身の活動を振り返り、教育の理念・方法・成果等を省察し、エビデンスを基に重要な情報を集積します。

	年度	参加者数
第1期	平成22年度～平成26年度	69名
第2期	平成27年度	20名
	平成28年度	15名
	平成29年度	7名
	平成30年度	18名
	令和元年度	8名
第2期合計		68名



R1.7.6～7 TP作成ワークショップ

## ■ SP(スタッフ・ポートフォリオ)作成ワークショップ

SP(スタッフ・ポートフォリオ)とは、大学職員を対象としたポートフォリオです。SPは、これまでに経験した業務や業績を整理・記録するだけでなく、自己成長過程を省察し、自身のキャリアのビジョンとゴールを明確にすることを目的としています。SP作成ワークショップでは、TP作成ワークショップと同じく、具体的なエビデンスに基づき、メンターとのメンタリングを通じて大学職員としての自己を振り返り、SPを作成していきます。

	年度	参加者数
第1期	平成22年度～平成26年度	80名
第2期	平成27年度	14名
	平成28年度	11名
	平成29年度	5名
	平成30年度	6名
	令和元年度	27名
第2期合計		63名



H30.12.7～8 SP作成ワークショップ

## 03

## 研修講師派遣・訪問対応(オープン・オフィス)

## ■ 研修講師派遣

教育企画室では、全国の高等教育機関等を対象に講師派遣事業を行っています。第2期の5年間では、延べ293機関に対する講師派遣を行いました(令和2年2月現在)。

第2期に行った講師派遣のうち、5年間の合計依頼件数が多かった内容を抽出し、年度別にまとめたものが以下の表です。アクティブラーニング、教授法といった教育力そのものの向上を企図した内容が多く見られますが、近年はカリキュラム、学習成果・評価といった教育の制度設計に関する研修依頼が増加しています。



項目	H27	H28	H29	H30	R01	計
アクティブラーニング	6	16	14	11	8	55
授業デザイン	7	7	4	2	0	20
教授法	5	4	2	4	4	19
リーダーシップ研修	7	7	5	0	0	19
学習成果・評価	0	4	4	4	6	18
新任教職員等研修	1	4	0	5	4	14
危機管理/ハラスメント	3	3	2	3	3	14
カリキュラム	1	1	2	1	8	13

## 講師派遣実績

(単位:機関)

	年度	合計
第1期	平成22年度～平成26年度	353
第2期	平成27年度	55
	平成28年度	68
	平成29年度	64
	平成30年度	64
	令和元年度	42*
第2期合計		293

※令和2年2月末現在。

## ■ 訪問対応(オープン・オフィス)

全国の高等教育機関への講師派遣だけでなく、愛媛大学での訪問調査対応を行っています。調査依頼内容は主に教職員能力開発の取組に関するものであり、毎年10前後の機関が教育企画室を訪れています。



## 訪問対応実績

(単位:機関)

	年度	合計
第1期	平成22年度～平成26年度	118
第2期	平成27年度	23
	平成28年度	14
	平成29年度	10
	平成30年度	12
	令和元年度	5*
第2期合計		64

※令和2年2月末現在。

教育企画室では、各種刊行物を通じ、教職員能力開発に関する情報を広く発信しています。これらの刊行物及び各種イベント・セミナーの案内や教材等の提供をはじめとした教職員能力開発に関わる情報については、教育企画室のホームページでも発信しており、平成29年度～令和元年度までの3年間で約2万件のアクセスがありました。

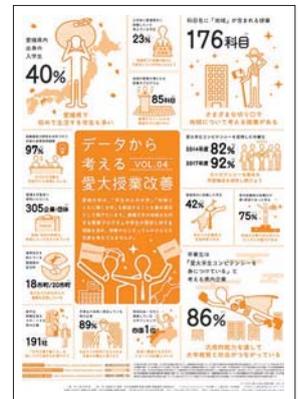
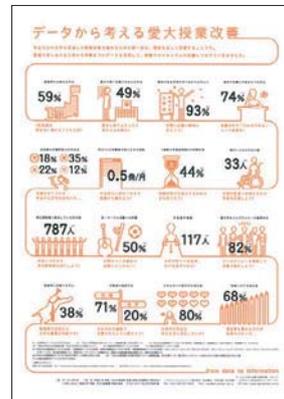
## ■ IR News

IRerへの支援の一環として、IRに関する全国的な動向や各種調査結果のハイライト、学部等における取組などを紹介しています。平成25年度に創刊号を刊行し、以降、第2期最終年度(令和元年度)までに毎年1回、計7号を刊行しました。



## ■ データから考える愛大授業改善

学生の背景や教育の実態を教職員が正しく把握し、授業やカリキュラムの改善を考えるきっかけとするため、愛媛大学の教育データをわかりやすいポスター形式でまとめて提供しています。IR Newsと同様に毎年制作しており、令和元年度に第5号を刊行しました。



## ■ 大学教職員のための32冊

本拠点が推薦する図書を「授業を設計する」「大学を運営する」といったテーマ別に厳選しまとめたリーフレット「大学教職員のための32冊」を平成27年度に刊行しました。本リーフレットは、各種研修やホームページを通じて全国の高等教育機関に提供しています。



# 05

## その他, 教職員能力開発に関する事業

### ■ コンサルティング

授業やカリキュラムの改善, IR等, 能力開発や組織開発に関するコンサルティングを行っており, 愛媛大学内外問わず高等教育機関を対象としています。ニーズ分析→現状診断→提案→フォローアップというコンサルティングプロセスに, 講師派遣やオープン・オフィスを組み合わせることで, 中・長期的な支援体制を構築している点が特長です。

#### コンサルティングの流れ



#### 具体的な提供サービス

- 授業コンサルティング
  - ・ MSF (Midterm Student Feedback: 中間期の振り返り)
  - ・ 授業風景ビデオ撮影サービス
  - ・ シラバス作成支援サービス
- カリキュラムコンサルティング
  - ・ カリキュラム診断サービス
  - ・ カリキュラム開発コンサルティングサービス
- 能力開発コンサルティング
  - ・ 研修体系設計コンサルティング
  - ・ 講師派遣サービス

### ■ 論文・記事掲載, 書籍刊行

各専門分野や本拠点の取組・大学全体の取組などについて本拠点スタッフがまとめた論文・記事等が, 各種教育誌・新聞等に掲載されました。また, 平成27年度～令和元年度までに, 教職員能力開発や教育改善, 大学運営等に関する書籍計23冊(共著含む)が出版されています。

## 令和元年度 教育企画室スタッフ

令和2年3月現在

スタッフ	役職	専門
小林 直人	学長特別補佐(教育), 教育・学生支援機構副機構長, 教育企画室長, 医学部教授	医学教育カリキュラム, 学生の自己学習への支援, FD 等
中井 俊樹	教育企画室副室長, 教授	高等教育論, 人材育成論(SDC資格取得者)
村田 晋也	教育企画室, 講師	組織論(FD), リーダーシップ論, 人的資源管理論
仲道 雅輝	教育企画室, 講師	インストラクショナルデザイン, 教育工学, FD, e-learning (SDC資格取得者)
竹中 喜一	教育企画室, 講師	高等教育論, 教育工学(SDC資格取得者)
阿部 光伸	学生支援センター, 講師	SD, 高等教育政策, 産業教育論(SDC資格取得者)
高橋 平徳	教職総合センター, 講師	生涯学習論, 人的資源管理論
丸山 智子	学生支援センター, 講師	教育開発, リーダーシップ, プロジェクト・マネジメント (SDC資格取得者)

事務スタッフ	役職
吉田 一恵	愛媛大学SD統括コーディネーター, 教育学生支援部 教育企画課能力開発室長(SDC資格取得者)
織田 隆司	教育学生支援部 教育企画課長(SDC資格取得者)
吉松 朋子	教育学生支援部教育企画課 副課長

## その他の第2期認定期間在籍スタッフ

スタッフ	役職	専門
清水 栄子	教育企画室, 講師(～H30年度)	高等教育, 学習支援(SDC資格取得者)
上畠 洋佑	教育企画室, 特任助教(～H30年度)	高等教育論, SD, IR(SDC資格取得者)
平尾 智隆	学生支援センター, 准教授(～H29年度)	教育経済学
小林 忠資	教育企画室, 特任助教(～H29年度)	比較教育, 高等教育
加地 真弥	教育企画室, 特定研究員(～H29年度)	教育学, 英語教育, IR
山中 亮	教育企画室, 特任助教(～H28年度)	リーダー養成, キャリア形成, コーチング, ネットワーク構築



## 平成27年度～令和元年度の教職員能力開発拠点の事業方針

### 事業目的

教職員能力開発拠点では、これまでに開発したFD/SDプログラムを充実させ、全国の高等教育機関で活用できる研修等を提供します。さらに、平成26年度まで5年間の実績を踏まえ、自組織において教育改善を推進できるFD/SD/IRの専門家を養成するためのプログラムを開発・提供し、全国的な教育力向上を図ります。

### 事業内容

- ①FD/SD/IR推進の専門家(FDer, SDコーディネーター, IRer)の養成・支援
- ②研修プログラム及び教材の提供
- ③オープン・オフィス(訪問対応)
- ④研修講師派遣
- ⑤情報発信
- ⑥その他、教職員能力開発に関する事業



令和2年3月 発行

発行: 教職員能力開発拠点(愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室)  
〒790-8577 愛媛県松山市文京町3番 TEL 089-927-8922(FAX兼用)  
E-mail opar@stu.ehime-u.ac.jp <http://web.opar.ehime-u.ac.jp/>

印刷: セキ株式会社